（別紙様式）

平成２８年度 学校自己評価システムシート（県立ふじみ野高等学校）

目指す学校像	学習とスポーツ・文化活動を両立し、地域に元気・感動・夢を発信する学校

重点目標	１　基礎学力の向上 ２　基本的生活習慣の維持と規範意識の向上 ３　進路実績の向上 ４　部活動・生徒会活動・ボランティア活動の充実と情報発信

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	６名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	４名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（平成２９年２月１日現在）			実施日　平成２９年２月１４日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○普段から家庭学習する生徒が増加しているが、64.8%の生徒が授業以外に家庭学習をやらないと回答していることから、家庭学習を積極的に行う生徒の育成に全教職員が共通理解のもと取り組む必要がある。授業に意欲的に取り組む生徒も増加しているが、学校、家庭、生徒が一体となり、基礎学力の向上に取り組む必要がある。	○学習に積極的、主体的に取り組む生徒の育成	①基礎学力向上の取り組みを将来構想検討委員会で検証し、その結果を全職員で共有し改善する。 ②進路・教科・学年での補講等を充実させるとともに、各種検定を推奨・実施する。また、学習の遅れ気味の生徒に補習を実施する。 ③チャイムトゥチャイムによる授業を確実に実施する。 ④授業改善・授業力向上に公開授業週間や高校教育指導課事業等を活用する。	①委員会の開催回数、取組内容の情報提供回数 ②補講の実施回数と受講者数、各種検定の実施回数と受験者数・合格者数 ③チャイムトゥチャイムの授業の実施状況 ④授業参観者数、研究授業実施者数、教科会等での研究協議の実施状況	①県外の先進的な取り組みを２名の教員が視察と研修会に参加し、将来構想委員会で将来構想に関する検討を始めた。 ②数検準２級２名、漢検準２級２名、家庭技術検定３級１３名、ビジネス文書検定２級２名等の合格者を出した。 ③チャイムトゥチャイムの励行により授業規律が一層確立された。 ④未来を拓く「学び」プロジェクト公開研究授業では３名が授業公開し、２０名で研究協議を行った。	B	①次年度は、本年度の取組を生かして、本校の将来構想を検討する。 ②広報を工夫するなどして各種検定受験者数や合格者数を増加していく。 ④公開授業週間の参観者数を増加させるための工夫を検討する必要がある。	意欲的に授業に取り組む生徒が大多数であり、良い学習環境であるが、家庭学習を行っている生徒が少ない。よって、授業で宿題を計画的に出したりして家庭学習の習慣化に取り組んでもらいたい。また、わかる授業のために、アクティブラーニング等の新しい授業方法に取り組んでもらいたい。生徒は、社会の変化に対応できる能力を身に付けるために、主体的な学習に努め、理解が不十分な部分をなくす努力を積み重ねてもらいたい。
2	○あいさつ、身だしなみ、マナー、交通ルール等の基本的生活習慣・社会規範について、保護者・地域から一定の評価をいただいているが、遅刻者数や生徒指導件数が横ばいの状況である。一段階高いレベルで、一人一人が「チームふじみ野」の一員として責任ある行動が取れるよう指導を徹底するとともに、交通安全指導は、継続して取り組む必要がある。	○「時を守り、場を清め、礼を正す」意識の向上と交通安全の徹底	①登校指導や服装・頭髪指導を全教員で実施する。 ②交通安全マナーアップ講座等を全校で取り組む。 ③清掃・美化活動に全校体制で取り組む。 ④スクールカウンセラーを活用し、教員間で情報を共有化し適時適切に対応する。	①④出席状況（皆勤者数、精勤者数） ①生徒指導件数 ①②③生徒の自己評価（生　徒アンケート） ①②③保護者・地域の評価 ②交通安全指導の取組状況 ④教育相談、個人面談の実施状況 ④中途退学者数、転学者数	①本年度の２学期皆勤者数３６５名（１０名増）で登校指導の効果が出てきている。 ①生徒指導件数は１件、１０名減少した。 ①②③基本的生活習慣が身に付けられ、生徒アンケートから９０％以上の生徒が良好な状況である。 ①②③保護者の８５％以上が、校内清掃が行き届いていると回答している。 ④スクールカウンセラーによる生徒・保護者面談を適時に行った。（延べ34件）中途退学者数７名減少した。	B	①９０％以上の生徒は、基本的生活習慣を確立できているが、さらにきめのこまやかな登校指導等が必要である。 ①②③社会規範や交通ルールの遵守の取組内容を充実し、１段階高いレベルで、「チームふじみ野」の意識の醸成が必要である。	生徒アンケートから生徒と教職員の信頼関係が築かれていることがうかがえ、今の高校生では珍しいことであり、非常にうれしいことである。 様々な理由により進路変更する生徒がいることから、スクールカウンセラーをより一層活用するとともに、一人一人の状況に応じた指導をしてもらいたい。
3	○学年と進路指導部が連携し、根気強くきめ細かい指導をすることにより、「学校斡旋就職率100％の達成」「進路決定率96％」と、就職・進学ともに成果を上げている。さらに、一段階高いレベルの進路実現を目指し、組織的・計画的な指導を充実させる必要がある。特に、１年次から保護者の進路意識の向上にも取り組む必要がある。	○１段階高いレベルの進路実現に意欲的に取り組む生徒の育成と保護者の進路意識の向上	①面接指導や小論文指導、就職対策講座、進学対策補講等を実施する。 ②生徒・保護者に良質な進路情報を提供し各種ガイダンスを実施する。 ③就労体験活動を実施し、自己理解を深めて高校生活の意義を確認させるとともに、進路意識を醸成させる。 ④進路説明会、進路バス見学会、三者面談等を実施し、保護者の進路意識を向上させる。	①学校斡旋就職率 ①進学者数 ①卒業時の進路未定者数 ②進路関係情報の提供回数ガイダンス等の実施状況 ③参加生徒の変容と生徒・保護者の評価 ④１段階高いレベルでのＰＴＡ進路関係行事の実施状況と保護者の評価	①学校斡旋就職率１００％を達成した。 ①中堅大学以上の進学者数が２１名（９名増）となった。 ②生徒・保護者の８０％程度が「計画的・段階的な進路指導を行っている」と回答している。 ③生徒の５４％が「働く重要性を知った」等、進路意識が向上した。 ④保護者対象の進路説明会、進路バス見学会への参加者が少なかった。ＰＴＡ主催の就職や進学の模擬面接は生徒の進路実現に有効であった。	A	①②③１段階高い進学実績や就職実績が芽生え始めていることから、行事を精選するなど効率的、効果的な進路指導が必要である。 ④保護者対象の進路行事への参加者を増やす広報活動を工夫する必要である。 ④ＰＴＡ主催の模擬面接と進学模擬面接は、次年度も必要である。	就労体験活動は、大きな成果をあげている。受入れ事業所の開拓など大変だと思うが、生徒の健全育成のためには、必要な取組であるので継続してもらいたい。 進路指導が計画的・段階的に行えており、進路状況が１段階高い実績につながりつつある。 ＰＴＡと連携した進学模擬面接会をもう少し早い時期にやったほうが良いと思うが検討してもらいたい。
4	○全国・関東大会に出場を果たした部が多数あり部活動が充実してきているが、他部も一段階高いレベルを目指し取り組む必要がある。また、迅速な学校行事等の情報発信が好評であるが、メール配信の登録割合を100%に近づけることが課題である。生徒募集活動と広報活動を全職員で取り組み、入試倍率1.1倍以上を確保する必要がある。また、ボランティア活動にも継続して取り組む必要がある。	○部活動実績やボランティア活動に対する意識の向上と、保護者・地域・中学生への迅速でタイムリーな情報の提供	①外部指導者を活用するとともに、埼玉県教育環境整備基金に取り組む。 ②学校行事・部活動実績等、生徒の活動を全校体制で迅速にホームページに掲載する。 ③メール一斉配信による保護者への学校情報の提供を継続する。 ④中学校訪問を全校体制で実施するとともに、各種教育団体等の視察等を積極的に受け入れる。 ⑤市主催の行事や地元小中学校との交流事業へ生徒・教員を積極的に派遣する。	①部活動実績、基金の進捗状況 ②本校からの情報発信件数 ③メール配信の回数と登録数 ④中学校訪問の回数・人数と視察・訪問等の状況 ⑤ボランティアの回数と参加生徒数	①全国大会４つ、関東大会４つの部活動が出場を果たした。埼玉県教育環境基金は、２，０４６，０００円の寄付をいただいた。 ②③ホームページ更新１６６回、メール配信１８回行うことができた。 ④７・１２月と２回実施し、のべ１２４校へ、１９８名の教員で訪問した。 ⑤生徒６３９名、教員７５名を派遣した。	A	①次年度も、全国大会や関東大会へ出場できるよう部活動の充実していく。 ①埼玉県教育環境基金の計画を修正して整備する。 ②③④⑤次年度も、学校からの情報発信、中学校訪問、ボランティア等を充実させる。また、入試倍率１．１倍以上を確保できるよう、生徒募集活動を行う必要がある。	地域の行事にボランティアで多くの生徒と教員が参加していることで、地域の方々から高い評価をいただいている。今後は、福祉関係のボランティアにも取り組んでもらいたい。 就労体験報告書を保護者の方や学校外の方々に読んでもらえるようにしてもらいたい。 学校説明会に参加せず入学している生徒がいるようなので、必ず参加するように中学校でも指導を徹底していきたい。